

登録コード	UAF54500	開講年度	2026				
授業題目	障害児者臨床心理学特論				担当教員	下山 真衣	
					副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5 U Aカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5 U Aカリ・総人社・心理長野・臨床心理学						
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	・発達障害（特に自閉スペクトラム障害と知的障害）のある子どもや大人の教育と支援に関して応用行動分析学を中心にその支援について学び、臨床実践可能な知識・技能を身につける。	
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	・発達障害（特に自閉スペクトラム障害と知的障害）のある子どもや大人の教育と支援に関して応用行動分析学に基づいたアセスメントを実施し、実際に障害のある子どもと大人に臨床的な支援を実施するための基礎的スキルを身につける。	
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	・発達障害（特に自閉スペクトラム障害と知的障害）のある子どもや大人の教育と支援に関して応用行動分析学に基づいた支援計画を提案し、他者とコミュニケーションを深める中で支援を修正することができる。	
(2)授業の概要	本授業では、障害児者の臨床心理学についてディスカッションを中心に進めていく。特に、知的障害のある人のメンタルヘルスと心理支援、知的障害と自閉症のある人の強度行動障害について、現代的な課題を含め検討を深めていく。						
(3)授業計画	第1回 知的障害のある人への心理支援とは 第2回 知的障害のある人への心理支援における課題の整理と検討 第3回 知的障害のある人への心理支援：アセスメント 第4回 知的障害のある人への心理支援：アクセシビリティ 第5回 知的障害のある人への心理支援：支援計画 第6回 知的障害のある人への心理支援：支援の実際 第7回 知的障害のある人への心理支援：支援の評価 第8回 行動障害とは 第9回 行動障害のある人への支援における課題の整理と検討 第10回 行動障害のある人への支援：アセスメント 第11回 行動障害のある人への支援：支援計画 第12回 行動障害のある人への支援：支援の実際 第13回 行動障害のある人への支援：支援の評価 第14回 まとめと授業アンケートの実施						
(4)成績評価の方法	課題レポート（40%）と演習による研究発表（30%）に関わる討論(30%) によって、専門的で新しい知識を説明し、実践的課題に対する検討の深化と支援の応用の提案ができているかについて評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(5)成績評価の基準	①専門職としての学識・技能、②障害児者の支援の応用力、③柔軟な発想力に関して評価する。 『合格水準にある』①に関する説明、②の検討、③に関する発表ができる。 『やや上にある』①に関する説明、②の検討、③に関して、レポートの作成、発表ができる。 『かなり上にある』①に関する説明、②の検討、③に関して、根拠に基づきレポートの作成、発表ができる。 『卓越している』①に関する説明、②の検討、③に関して、根拠に基づいた具体的なレポートを作成し、発展的な展望を示せる。						
(6)事前事後学習の内容	・授業時間以外に情報収集、課題の検討、発表資料の作成をし、授業で担当教員とさらなる検討が可能となるよう準備を絶えず続けること。 ・授業の終わりに次回授業の予告とともに事後学習の復讐の範囲と事前学習範囲を指示するので、その範囲について、専門用語の定義の確認を行い、先行研究の収集と熟読をすること。そのため、予習と復習には毎回1時間以上の時間を自主学習に当てる必要が出てくる。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(7)履修上の注意	相談等がある場合はメールで対応する。研究室訪問は常時受け付けるが、なるべく事前に訪問日時を相談すること。						
(8)質問,相談への対応	質問や相談は研究室の対面、もしくはオンライン、メールで受け付ける。 メールアドレス： mshimoyama@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	知的障害のある人への心理支援 思春期・青年期のメンタルヘルス 下山真衣 編 学苑社 ISBN: 4761408375 チャレンジング行動 一強度行動障害を深く理解するためにー 園山繁樹・野口幸弘 編 二瓶社 ISBN: 4861080894						
【参考書】							